

藩政史研究会五〇回の歩み

藩政史研究会

平成五年（一九九三）七月十一日に開催した、「藩政史研究会」は五〇回を数えることになった。昭和五十三年（一九七八）十二月二日に第一回の研究会を開始して、やく十五年を経過したことになる。

本年九月に開催した、弘前大学国史研究会総会において、五〇回を迎えた、この機会に藩政史研究会を発展的に解消して、「弘前大学国史研究会例会」としたらいかがであろうかとの提案がなされ、ここに藩政史研究会を解消して本例会とすることに決定した。それはつぎの理由による。十五年以前と比較して、近世史の研究者のみならず、原始考古・古代史・中世史・近代史の研究者も本会会員に増えつつあり、研究発表の場を拡大充実したい。加えて、藩政史研究会が弘前市を中心とした地域の会員を対象として主として開催していたのを改め、近年、大幅な会員の増加をみている本会の会員に対して広く研究成果を知らせたいという、いわば内容の充実と対象の拡大を図る意図のもとに、右のような提案とった次第である。

さて別表に示したように、昭和五十三年十二月に出発した、藩政史研究会の歩んできた道が、けっして平坦なものではなかったことは一目瞭然である。会場は第二六回あたりまでは、おおむね弘前市立弘前図書館（現在の名称は弘前市立図書館）の会議室を借用し、それ以後は弘前大学人文学部の演習室や弘前市文化センターの会議室などを借用した。ま

た参加人員は、学生も含めて一〇名未満の時もあり、時には三〇名を数えることもあったが、一五名前後の熱心な参加者、ならびに荒井清明・黒滝二郎・福井敏隆氏などの藩政史研究会の主幹により、当会は運営されてきた。福井氏には、引続き国史研究会例会の主幹として、例会の運営を担当していただくことが本会総会にて決まった。会員各位の、特段のご協力をお願いしたい。

別表をご覧いただければお分りのように、藩政史研究会では研究報告だけでなく、講話、話題提供などの機会を設けたこともあり、また日本史のみでなく外国史の報告をしていたこともあった。したがって内容的にはかなりフレキシブルな枠組みで出発したのであり、発表者も大学の研究者だけでなく、大学院生、教員など多岐にわたっており、その点でも開かれた研究発表の場であったといってもよからう。またその時々の世界情勢を踏まえた、時宜にかなった企画もなされてきた。なかでも大学院生が修士論文や自己の研究論文の構想を発表する場としても活用されてきたことから、若手研究者の育成にも資するところがあったのであり、その点でも当研究会の役割は評価されてもよいのではないかと密かに考えている。

五〇回の歩みをご覧いただいて、いかなる評価を下すかは、会員さまごまであるが、十五年間にわたって当研究会を色々な形で支え支援していただいた会員をはじめ、会員以外の方々、各機関には衷心より御礼を申し上げる次第である。さらに当研究会を発展的に解消して、新たに出版する弘前大学国史研究会例会に対しても、かわらぬご支援をいただければ幸いである。

（文責 長谷川成一）

弘前大学 國史研究会・藩政史研究会 50 回の歩み

第1回	昭和53年12月2日	講話 題供	長谷川成一氏	「藩政史研究の動向」
第2回	昭和54年2月18日	講話 題供	實氏 敏隆氏	「藩政史研究の動向」
*第3回	昭和54年4月15日	講話 題供	福井 敏隆氏	「藩政史研究の動向」
第4回	昭和54年6月24日	研究報告	小館 眞三氏	「藩政史研究の動向」
第5回	昭和54年10月7日	研究報告	福井 敏隆氏	「藩政史研究の動向」
第6回	昭和54年12月9日	発表	長谷川成一氏	「藩政史研究の動向」
第7回	昭和55年3月2日	研究報告	山上 實氏	「藩政史研究の動向」
第8回	昭和55年4月27日	発表	淺倉 有子氏*	「藩政史研究の動向」
第9回	昭和55年7月27日	研究報告	瀧澤 有子氏*	「藩政史研究の動向」
第10回	昭和55年11月16日	研究報告	坂本 壽夫氏	「藩政史研究の動向」
第11回	昭和55年12月7日	研究報告	長谷川成一氏	「藩政史研究の動向」
第12回	昭和56年2月22日	研究報告	七尾 美彦氏	「藩政史研究の動向」
第13回	昭和56年4月12日	研究報告	小館 眞三氏	「藩政史研究の動向」
第14回	昭和56年6月21日	研究報告	長谷川成一氏	「藩政史研究の動向」
第15回	昭和56年11月15日	講話	高橋 理氏	「藩政史研究の動向」
第16回	昭和57年2月14日	研究報告	長谷川成一氏	「藩政史研究の動向」
第17回	昭和57年6月27日	研究報告	雲藤 等氏*	「藩政史研究の動向」
第18回	昭和57年11月21日	研究報告	淺倉 有子氏*	「藩政史研究の動向」
第19回	昭和57年12月12日	講話	中沢 勝三氏	「藩政史研究の動向」
第20回	昭和58年3月27日	研究報告	黒瀧 十二郎氏	「藩政史研究の動向」
第21回	昭和58年6月12日	研究報告	池上 正雄氏	「藩政史研究の動向」
第22回	昭和58年10月16日	研究報告	篠村 正雄氏	「藩政史研究の動向」
第23回	昭和58年12月4日	研究報告	長谷川成一氏	「藩政史研究の動向」
第24回	昭和59年2月19日	研究報告	福井 敏隆氏*	「藩政史研究の動向」
第25回	昭和59年5月13日	研究報告	田中 誠一氏	「藩政史研究の動向」
第26回	昭和59年12月2日	講話	北川 誠一氏	「藩政史研究の動向」
第27回	昭和60年10月13日	研究報告	長谷川成一氏	「藩政史研究の動向」
第28回	昭和60年12月8日	講話	小島 康敬氏	「藩政史研究の動向」
第29回	昭和61年2月2日	研究報告	黒瀧 眞三氏	「藩政史研究の動向」
第30回	昭和61年4月20日	研究報告	山上 實氏	「藩政史研究の動向」
第31回	昭和61年9月21日	研究報告	浪谷川成一氏	「藩政史研究の動向」
第32回	昭和61年12月14日	研究報告	長谷川成一氏	「藩政史研究の動向」
第33回	昭和62年2月22日	研究報告	小島 康敬氏	「藩政史研究の動向」
第34回	昭和62年10月25日	研究報告	黒瀧 眞三氏	「藩政史研究の動向」
第35回	昭和62年12月13日	講話	福井 敏隆氏	「藩政史研究の動向」
第36回	昭和63年2月21日	研究報告	池上 敏隆氏	「藩政史研究の動向」
第37回	昭和63年5月15日	研究報告	長谷川成一氏	「藩政史研究の動向」
第38回	昭和63年12月4日	講話	小岩 信竹氏	「藩政史研究の動向」

第39回	平成元年	2月26日	研究報告	黒瀧十二郎氏	「法令より見たる津輕藩士の生活～衣食住を中心として～」
第40回	平成元年	5月28日	研究報告	瀧本壽史氏	「下北半島をめぐる研究動向」
第41回	平成元年	12月10日	研究報告	三橋昭規氏	「“北狄の押へ”と東アジア地理認識」
第42回	平成2年	2月25日	報告	カサフ・ハナジ氏 北川誠一氏	「現代トイツ史の問題～トイツ再統一をめぐる～」 「現代トイツ史の問題～アルメニア・アゼルバイジャン民族対立の歴史的背景～」 「秋田藩における新田開発の諸問題」 「安政期藩府輻輳地政策と秋田藩」 「国史研究会例会として実施」
第43回	平成2年	11月4日	研究報告	泉正也氏 金森正也氏	「近世南船廻船における折りと信仰～鎌右衛門小絵馬を中心に～」
第44回	平成2年	12月2日	研究報告	泉正也氏	「徳川將軍権力成立過程についての考察～三河一同一揆を通して～」
第45回	平成3年	12月8日	研究報告	福井敏隆氏	「明治初年の弘前藩の経済政策について」
第46回	平成4年	5月31日	研究報告	岩藤尚智氏*	「高照神社「御告書付」について」
第47回	平成4年	11月1日	研究報告	坂本壽夫氏	「新田家系と三鏡昔話」～邊野南郡家臣団研究のアプローチとして～
第48回	平成4年	12月6日	研究報告	瀧本壽史氏	「法令より見たる津輕藩の農民の生活」
第49回	平成5年	5月23日	研究報告	瀧田俊雄氏	
第50回	平成5年	7月11日	研究報告	黒瀧十二郎氏	

*印は院生等の発表

原図：福井 敏隆氏作成